

令和6年度

# 東明小だより

令和7年2月21日  
第12号



## 「地域に支えられて育つ子どもたち」



校長 吉田 尚子

昨日、お世話になった地域の方を招いて行う「感謝の会」が行われました。コロナ禍を終えて、行事の見直しや縮小が叫ばれている昨今ですが、東明小においては、この行事はやっぱりなくすことのできない大切な行事の一つなのです。



登下校や読み聞かせ、茶道や陶芸などのふるさと教育に始まり、社会科・総合的な学習等の教科全般。また、運動場の草刈りなどの環境面へのサポート等、実に多くの場面で地域の方々のお力を借りながら、子どもたちの豊かな学校生活が東明小では行われています。今年度も昨年度同様、100人以上の方々にご支援をいただきました。

当日の会の中では、地域の方々から熱いメッセージをたくさんいただきました。「たくさん学んでも心も体も成長してほしい。」「ふるさと可見にはたくさん素晴らしいものがある。」「ずっと・いつかは・思いついたら可見。」これらいただいたメッセージは、確実に子どもたちの心の中に染み渡っています。その結果として、今年は子どもたちの中にも、地域とのつながりに対し意識の変容が現れ始めました。

例えば高学年を対象にした児童アンケートでは、「学校は地域の人に支えられているか」という問いに対して、「はい」と回答した児童はなんと97%。また、「将来地域の役に立ちたいと思うか」という問いに対しては、84%の児童が「役に立ちたい」と回答していました。これは、昨年度よりも大きく上昇しています。

東明小学校は、本年度から本格的にコミュニティー・スクールとしての新たな歩みを始めました。しかし、その教育の本質は、「6年間をかけて子どもの学びと成長を保障し、ひとりだちできる力をつけてやることに他ならない。」と思っています。

東明小学校での学び、そして、地域の皆様に支えられて学ぶふるさとの「歴史・伝統・文化」こそが、子どもたちの将来を支える大きな力となることを信じています。

